

岡山県酪農・肉用牛生産近代化計画の素案について

酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律に基づき、国が「酪農及び肉用牛生産の近代化を図る基本方針」を公表したことを受け、「岡山県酪農・肉用牛生産近代化計画」を見直すこととしており、このたび、素案がまとまったのでご意見を募集します。

1 計画期間

令和 8 年度～令和 12 年度（5 年間）

2 計画の素案の概要

（１）酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

本県畜産業の安定的な発展と畜産物の安定供給を実現するため、牛（飼養頭数の確保）、飼料（飼料費の低減、安定供給）、人（担い手・労働力の確保）のそれぞれの視点から生産基盤の強化を総合的に進めるとともに、家畜衛生対策や畜産環境対策、畜産と地域の活性化、畜産物の安全確保と消費者の信頼確保、ニーズを踏まえた生産・供給の推進等に取り組む。

また、家畜及び作業者の暑熱対策、スマート農業技術の導入など、飼養環境の改善や労働負担の軽減により持続的な酪農・肉用牛経営を目指す。

（２）生乳の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の飼養頭数の目標

区分	乳用牛飼養頭数	生乳生産量	肉用牛飼養頭数
現状(令和 5 年度)	15,417 頭	109,114 トン	35,540 頭
目標(令和 12 年度)	14,900 頭	112,810 トン	35,700 頭
目標/現状	97%	103%	100%

ゲノミック評価等を活用し、酪農においては生乳生産性の高い牛群、肉用牛においては産肉能力の優れた繁殖雌牛群の効率的な造成を図る。

（３）近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標

労働負担軽減に取り組むため、スマート技術の導入、耕畜連携や外部組織の積極的な活用等により、生産性向上を目指す経営モデルを提示する。

（４）飼料の自給度の向上に関する事項

耕畜連携や飼料生産組織の運営強化、農地の集約化、遊休農地の活用、稲わらの利用を推進し、県産飼料の生産・利用拡大を図る。

3 今後のスケジュール

令和 7 年 11 月 19 日 パブリックコメント募集
～12 月 18 日

令和 8 年 1 月 計画（案）の農林水産委員会報告
令和 8 年 1 月 国への協議
令和 8 年 3 月 県計画の公表